

### 復活する郭、新しい橋詰広場 飯田橋駅西口

飯田橋駅の西口は、かつての牛込見附であった。牛込橋の先に見える城内を眺めると、お堀周りの広く空いた空間の向こうに**高く黒々とした木々**が聳え、堂々たる「郭」の様相だったようである。そんな**かつての緑の郭**をここでつなぎ、見附方面への**風格あるヴィスタ**を表現する。石垣・植栽でアイストップを設け、早稲田通り奥への期待感を高める工夫としている。また、牛込橋の袂に**橋詰広場を大きく設ける**ことで、神楽坂と早稲田通りを結ぶ「楔」となり、人が集まる場となる。



### 首都高で郭を際立たせ緑道へと誘う 千鳥ヶ淵緑道西側入口

桜で名高い千鳥ヶ淵緑道だが、内堀通りとの交点では緑道の入口が目立たず、緑道に入る人は現状であまり多くない。今回提案では、**千鳥ヶ淵の「郭」の角を際立たせる**ことにより、千鳥ヶ淵緑道に回り込んで**回遊する人を増やす**。具体的には、**緑道の首都高際や首都高のトンネル直上に1.5mほどの土盛り**を施し、千鳥ヶ淵が一望できるようにする。また緑道脇の大量のタクシー駐車問題を解決するため、**自動車交通を抑制**する。家族連れから皇居ランナー、サラリーマンまでが楽しめる、千鳥ヶ淵の郭が再発見される。

### 部分平面図 ① 1:2500

■ 首都高際・直上に土手を作り公園に  
首都高のトンネル入口部の屋上を緑化・公園化し、段の構造から千鳥ヶ淵を一望できるようにする。

■ 緑道に削った土を盛り、首都高より高いレベルを作り出す

■ 自動車交通の抑制  
自動車交通の進入を幕苑利用者に限定し、日常的に駐車されているタクシーの排除を図る

### 詳細計画図 ① 1:2500

■ 外廓の内外をつなぐ立体的な橋詰広場  
■ 牛込見附の背景をつくる濃い常緑の森

■ 社と路地とリノベビルで裏へ誘う  
路地・街角・空きビルを開放し、まちの小さな「礼」の場を人々の居場所に転換して二合半坂への回遊を生み出す。

■ 東京大神宮と二合半坂を結ぶ「楔」  
共同建替時に交差点形状を配慮する。東京大神宮が、二合半坂を降りる回遊者のアイストップとなり、坂上と坂下をつないでいく。

■ 「クリエイティブスクール千代田3331」  
廃校をコンバージョンし、一般市民に開放する学習施設とする。周辺校の教師が出張授業を行う。一部に民泊用途を計画し、外国人も受け入れる。

■ 作法と工芸のギャラリーミュージアム  
既存ギャラリーを発展させ、隣接した空きビルで地域史を反映したミュージアムを開設、人のたまりを演出する。

■ 屋敷地の歴史を紡ぐ堀と緑の関係  
基本屋敷地であった中版部、堀を自然素材とし、堀の向こう側に緑を補植して、歴史を踏まえた現代的景観をつくる。

■ 「知」と「礼」が交わる楔状の広場

■ 洋館邸宅の保存と活用

■ 郭のコーナーに沿う居場所と風景  
水辺に近づきポイントとする。靖国通りの喧嘩から少し離れて、蓮のパナミックな風景や、遠く東京タワーを望む。

■ 中版の賑わいを復活させる沿道型開発  
■ 靖国通りを跨いで打込む楔状の広場空間

### 全体計画図 ① 1:10000

■ 緑ある見附門 風格のパノラマ  
■ 空が開ける 賑わいのパノラマ  
■ 外堀へのヴィスタ

■ 緑と強い軸線  
■ 田安門から遠くへ伸びる歩道の整備。水辺に近づき自然と歩み寄り、賑わいに人を誘う。東京タワーを見通す解放的な空間へ。

■ 首都高の屋根上も緑化し、歩道と連続する緑道に。緑道は首都高とのレベル差を作る。

■ 竹橋の郭を顕在化し、皇居ランナーが丸段坂の方まで来ようとする。

■ 戦後の道路によって断られた北船橋門で、緑の楔によりかつての連続性を取り戻す。

■ 楔への空間操作  
■ 郭への空間操作

■ 街中の堀  
■ 学校・宗教施設、その他重要施設

■ 千代田区役所と繋がる清水門  
多くの人が利用する千代田区の公開空地と清水橋前の空間。ここに舗装と樹木で軸をつくることで、既にある区庁舎前の人の流れと滞留を北の丸公園側に引き込む。

### 道路をまたいで「知」と「礼」が繋がる 富士見みらい広場

学校や教会、神社の堀に囲まれているこの街で、道路側にオープンスペースを設ける。向かい合う門前スペースをつないでゆく。道路と堀という「郭」に風穴を開け、子供の学び、送り迎えの保護者、折々の散歩の人、皆が使える空間となつてゆく。

### 田安門前、ヴィスタの通る「九段広場」

毎日イベントが行われる武道館には毎日多くの人を訪れるが、靖国神社を底とした豊かな地形と視線を遮る木々が茂る既存小広場に阻まれて、**田安門から飯田橋駅方面への人の流れは少ない**。そこで、**田安門正面に強い軸線を持った広場**を構築する。舗装や樹木の配置によって田安門の軸線を強調し、その上が遠く見通せることで歩きやすくなる。全部で「九段」ある広場内の段々は、大きな高低差を上りやすくすると共に、腰かけて滞在することができる。**早稲田通りと北の丸公園をつなぐ、大きな賑わいの楔**となる。

■ 本広場の位置  
■ 景色の抜け  
■ 街区の移転開発スキーム

①自動車動線の整理  
・少ない交通量だが、一方で自動車動線が複雑している。  
・現状5車線が靖国通りと接続→2車線に限定する。

②中央街区の容積を東側敷地に転移し広場化  
・山頂部や管理動線を除いてすべて広場化  
・田安門を正面に長えつつ各エリアに繋がる広場の創出  
・広場側の容積は東側敷地に転移し、開発

### 田安門前から内濠に寄り添う 千鳥ヶ淵緑道入口

新たに魅力的な視点を設けることで、**人通りの多い靖国通りから緑道入口へと人々を誘う**。田安門前では高燈籠を活かした小広場から水際の遊歩道へと人を導き、遊歩道の中には、**内堀の風格あるヴィスタを臨む視点場**を設け、来訪者を楽しませながら緑道入口まで誘導する。緑道入口の角地の古いビル一階をリノベーションしカフェなど飲食店の様子が外へ染み出させる。また、入口から少し入った場所の元九段病院の建て替えに伴い、一部に皇居ランナーが利用するランビットや緑道側に休憩できるカフェ・飲食店を設け、**緑道奥まで人の流れを生み出すきっかけ**とする。**今ある人の流れを魅力的に滞留させることで、千鳥ヶ淵沿いの回遊性を創出する**。

### 千代田区役所と繋がる清水門

多くの人が利用する千代田区の公開空地と清水橋前の空間。ここに舗装と樹木で軸をつくることで、既にある区庁舎前の人の流れと滞留を北の丸公園側に引き込む。